



学校だより

令和3年10月29日

ひびき

11月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

学校のDX化と個別最適の学び

校長 大塩 啓介

9月に行った分散登校と、それに伴うオンライン授業につきまして、ご家庭におけるご協力、本当にありがとうございました。ご家庭のお力添えなしでは、実施できなかったと思います。お陰様で、学校の授業を毎日進めることができました。しかし、実際にどのくらい児童が理解できているのか、コミュニケーションは図れているのか、機器の不具合なくスムーズにできるのか、情報モラルやメディアリテラシーは身に付いているのか、職員・保護者の皆様に負担はかかっているかなど、まだまだ課題は山積しています。すべてオンライン授業に変わることは想定されておりませんが、ロイノートを活用した情報の共有や把握の効率化など、現在の学校教育における足りないところを、新しいデジタル機器によってどのようにして補っていくか探っていきたいと思います。

学校の授業以外での業務は、パソコンの普及によって会社などと同じくデジタル化され、紙と鉛筆という時代ではなくなってきましたが、人と人をつなぐ授業についてはやはり対面型が必要になってきます。コミュニケーションは表情、口調、その場の話の流れなど、様々な要因を介して行われています。人の目を見て話はするもの、聞くものと古くから言われているところです。また、人間には感情がありますから、互いに意見を出し合うときも、枕詞を使ったり、肯定的な言葉を使いながら自身の意見を話したりするなど、日本的と言われるかもしれませんが、互いに気持ちよく過ごしていくための手段をとりながら進めていきます。オンライン授業では、顔が見え、考えを伝えられていても、ライブのリアル感にはかきません。オンラインの会議で限界を大人が感じるように、オンライン授業に最初は目新しく取り組んでいた児童も、だんだんと飽きと疲れが見えてきていました。獅子ヶ谷小では授業全部ではなく、できるところだけオンライン授業にしていたのですが、横浜市内では毎日体育以外の教科全てを行った学校もありました。その学校から話を聞くと、児童が日に日に元気でなくなっていたそうです。新聞やテレビの特集ではなかなか取り上げられない面があると思いました。

とはいえ、これまでは学習は紙と鉛筆で行っていましたが、オンライン学習を含めた学習のDX※1化は、個別最適の学習においては非常に有効なツールとなります。タブレットを用いた民間の家庭学習を取り入れているご家庭もあると思いますが、試験的に学校でもタブレットを使ったドリルを行ってみようと考えています。児童の学習状況の把握にどの程度活用できるのか、個々の学びにどれくらい活用できるのか等、成果と課題を洗い出しながら、今後の児童の学習活動に取り入れられるものは取り入れ、児童個々の状況に合わせた学習の推進を図っていきたいと思います。

※1 DX デジタルトランスフォーメーション デジタル活用した効率的な運用